



蛙のお舟

童

話

水谷年恵

野原の真中を、小川の水が、ゆる／＼流れて居りました。蛙が三匹、小川の水の中で泳いで居りました。其處へ、赤い鼻緒のかつこが、ぶつかりぶかり流れて來ました。

「やあ、お舟だ、お舟だ。」

「みんなで乗らうよ。」

「面白いね。」

三匹の蛙は、赤い鼻緒のかつこに乗りました。

かつこのお舟は、ぶつかり、ぶかり流れていきました。

小川の岸には、葦も咲いて居ました。蒲公英も咲いて居ました。つくしんぼも立つて居ました。

赤い鼻緒のかつこに、蛙が三匹乗つてぶつかりぶつかり流れて來たのを、一番先に見附けた葦が、

「まあ、面白いお舟だこと。」

と言つて、面白がりました。二番目に蒲公英が見附けて、

「あら、蛙さん達、すてきねえ。」

と言つて褒めました。三番目につくしんぼが見附けて、

「僕も乗りたいなあ。」

と羨ましがりました。

三匹の蛙は、

「おころ、ころ、ころ、ころくくく。」
と鼻歌を歌つて、行つてしまひました。

白い蝶々が、お舟を追かけて来て、

「わたちも、乗つていゝぢよ。」

と言ひました。一匹の蛙が、

「ん、いゝよ、此の赤い鼻緒に止つておいで、」

と言つて、白蝶々を止らせました。白い蝶々が鼻緒に止つたので、帆かけ舟になりました。

お舟は、やがて、大川へ出ました。大川の水はどんどと海の方へ流れて居ました。赤い鼻緒の帆かけ舟は、海の方へ、ぶかぶか流れて行きました。白い蝶々は、

「わたち、もういくわ、はいちや。」

と言つて、ひらく舞つて行つてしまいました。

三匹の蛙は、

「おころ、ころ、ころ、ころくくく。」

と歌つて居ました。

大川の堤で、三太郎と言ふ、いたづらつ兒が遊んで居ました。今大川の水の上を、赤い鼻緒のかつこに、蛙が三匹乗つて、ぶかぶか流れて行くのを見ると、

「やあーい、蛙が下駄に乗つてらー。」

と囃して、大きな土の塊を拾つて、ぽーんと、蛙のお舟に投げつけました。

ぼちやん……

と、大きな音がして、赤い鼻緒のかつこの邊で、川の水が飛び上りました。三匹の蛙は、川の中へ落つこつてしまいました。

三太郎は、もう一度、投げつけて、赤い鼻緒のかつこをひつくり返さうとして、土の塊を掴みました。掴んだ時、堤のいばらが、三太郎の指をちくりと刺しました。三太郎は、

「あいたつ」

と言つて、土の塊を放してしまひました。